

教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

令和7年12月19日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告
市民の豊かな学びに向けた図書館ビジョンの推進における令和8～11年度の実施事項について
- 3 審議案件
教委第42号議案 教職員の人事について
- 4 その他

教育委員会臨時会 一般報告

1 市会関係

○12/10 本会議（第3日）一般質問

○12/15 こども青少年・教育委員会（教育委員会関係）

○12/18 本会議（第4日）議案議決、追加議案上程・質疑・付託、追加議案議決

2 市教委関係

（1）主な会議等

（2）報告事項

○市民の豊かな学びに向けた図書館ビジョンの推進における令和8～11年度の実施事項について

3 その他

市民の豊かな学びに向けた図書館ビジョンの推進における 令和8～11年度の実施事項について

「横浜市図書館ビジョン」（令和6年3月策定）の具体化に向け、令和6年12月に公表した「今後の市立図書館再整備の方向性」に基づき進める、令和8～11年度の実施事項について報告します。

1 図書館ビジョンの具体化に向けた「今後の市立図書館再整備の方向性」(令和6年12月公表)の概要

現在の市立図書館の抱える課題

- ◆ 施設環境の老朽化・狭隘化
- ◆ 蔵書の不足
- ◆ 図書館サービス向上を担う、賑わい・体験等新しい機能の不足
- ◆ 図書館サービスへのアクセス性
- ◆ 現在の物流スペースの狭隘化

対応の方向性

従来の市立図書館全体の枠組みを再構築し、デジタル技術も活かしながら、提供するサービスの充実とアクセス性向上を目指す

柱1 市立図書館の再整備・機能拡張

- 地域館の老朽化対策
・まちづくりと連携した再整備
・短期間でのリノベーション
- 一部の地域館の中規模化
・市域バランス等を踏まえ、再整備の際に検討
- 新たな図書館の整備
・市立図書館が抱える課題への抜本的な対応

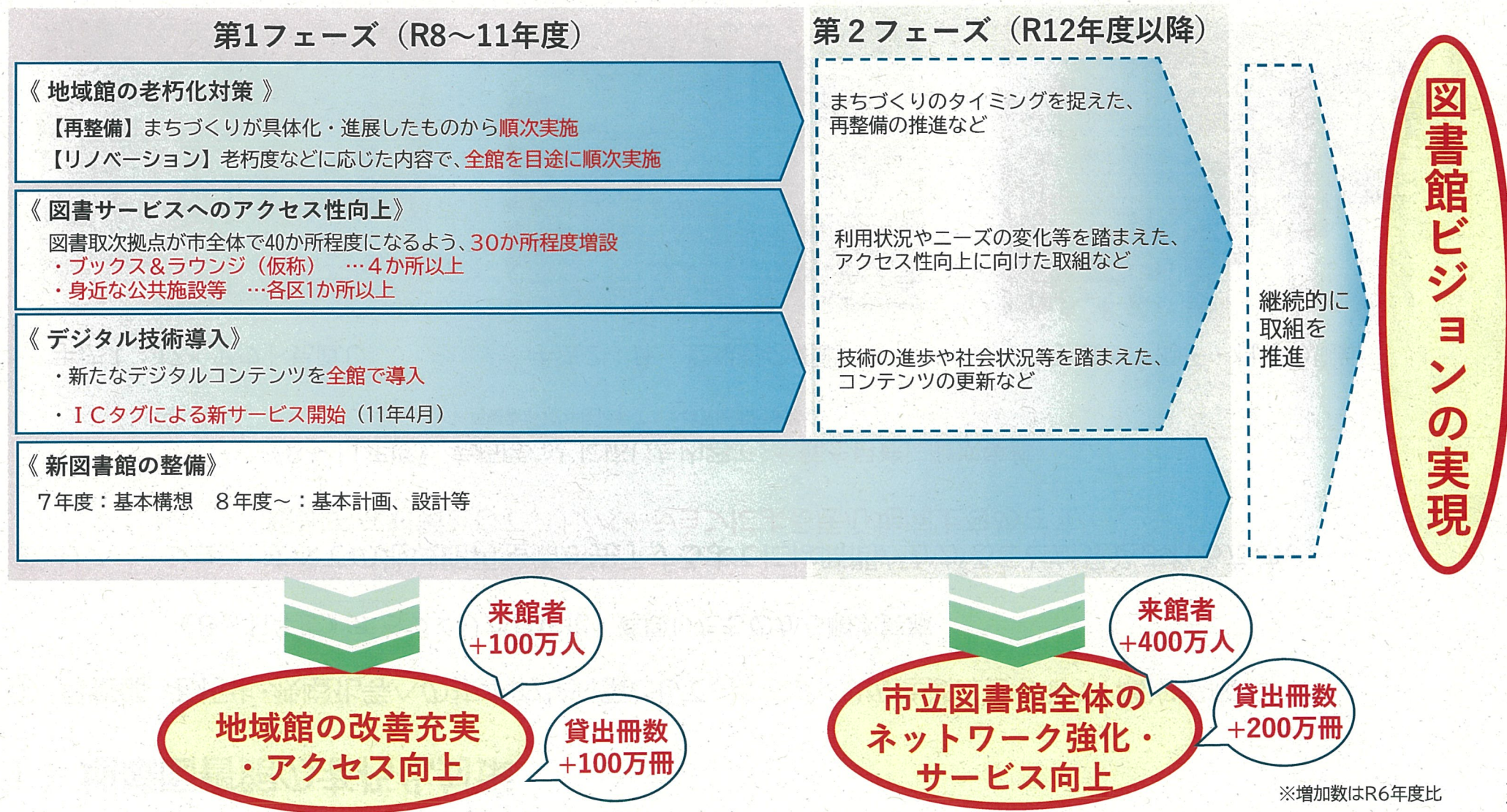
柱2 図書館サービスへのアクセス性向上

- 図書取次拠点の増設、物流拠点整備

柱3 デジタル技術の積極導入

- 多様な体験の提供や、利便性の向上

2 令和8～11年度で実現を目指す主な取組 ～ “4本の矢” で、「図書館が変わる！」～



(1) 地域図書館の老朽化対策

① **再整備** 老朽化・狭隘化等への抜本的な対策として、**まちづくりの進捗に合わせて、順次実施**

↓
《8～11年度》まちづくりが具体化・進展したもののから順次実施

② **リノベーション** すべての地域館再整備が完了するまでには時間がかかることが見込まれるため、**短期的な対策として、リノベーションによる居心地向上をめざす**

↓
《8～11年度》老朽度などに応じた内容で、**全館を目途に順次実施**

※ 再整備が12年度に完了する鶴見図書館を除く

手法1：レイアウト見直し



手法2：床・壁紙等の新調



手法3：椅子・机等の刷新



(1) 地域図書館の老朽化対策

【参考】リノベーションのイメージ



<一般書フロアのイメージ>



<児童フロアのイメージ>

(2) 図書サービスへのアクセス性向上

図書取次拠点 現在：12か所 内訳：地区センター等活用：8か所 行政サービスコーナー併設：2か所 民間床活用：2か所



令和11年上半期：40か所程度設置 になるよう、30か所程度増設(具体的な設置場所は、今後調整のうえ、確定)

	ブックス&ラウンジ(仮称)《新規》	身近な公共施設等の活用《従来型》
特色	通勤、買い物等利便性の高い場所	既存の公共施設等の活用による身近な場所
規模	図書貸出カウンター + 滞在空間	図書貸出カウンターのみを想定
機能	図書貸出・返却の取次機能に加え、 閲覧スペースや読み聞かせエリア等 を整備	図書貸出・返却の取次機能
箇所数	市域4方面に、1～2か所程度設置	各区1か所以上、区の規模等に応じて設置

<ブックス&ラウンジ(仮称)の想定シーン>

本とともに
くつろぎの自分時間を
本と出会い、読書に浸るなど、
思い思いにゆったり過ごす



家族・友達とのひととき、
つながりを深める
飲み物を片手に、くつろぎながら、
会話や交流を楽しむ



新しい発見や
ワクワクを感じる
新たな本や人と出会い、
好奇心が刺激される



図書館不足を補うために、
従来の図書取次拠点とは異なる、
“ふらっと立ち寄れる読書環境”を整備

(2) 図書サービスへのアクセス性向上

【参考1】 ブックス&ラウンジ (仮称) のイメージ



Book Lounge Kable

「兜LIVE!」HP (<https://kabuto-live.com/report/mzemde>)



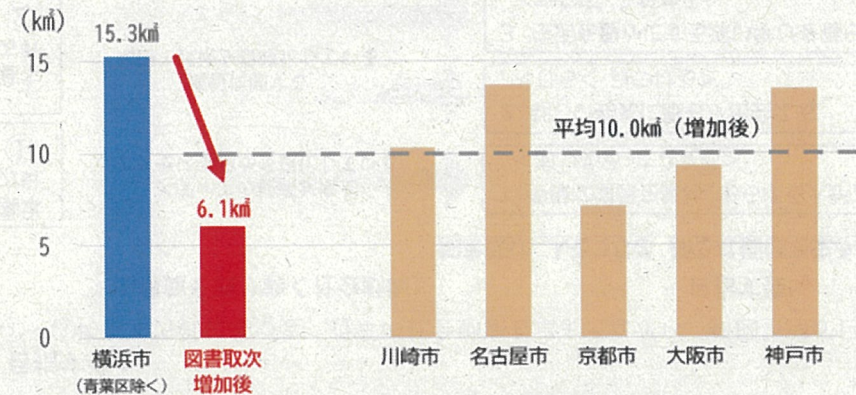
Olive LOUNGE 渋谷

提供: カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)

【参考2】

<図書館サービスが、主要都市で一番身近に！>

図書館・図書取次拠点1か所あたりのカバーエリア面積

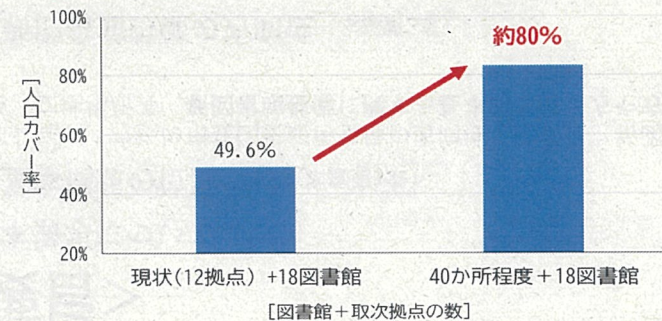


(各都市の人口集中地区 (DID※) 面積を図書サービスの拠点数で除して算出)

※都市の市街地の規模を表す指標。人口密度が4,000人/km²以上の区域 (国勢調査の基本単位区) が隣接し、人口が5,000人以上となる区域。

【参考3】

<市民の概ね8割が、徒歩20分程度でアクセス可能！>



(3) 新図書館の整備 <整備基本構想(素案)要旨>

- 図書館ビジョンの実現に向け、時代・ニーズの変化と、狭小化等市立図書館が抱える課題を抜本的に解決するため、今後の市立図書館再整備の方向性において新図書館整備の方向性を決定。
- 整備の具体化に向け、今後、市民意見募集を行った上で、整備基本構想を策定します。

1 検討状況

●長期スケジュール



●今年度の取組

- 図書館ビジョンの実現に向け、有識者や市民の意見を聴きながら構想を検討。
- 7～11月 有識者ヒアリング (6名)
 - 9～10月 小中高生インタビュー (各1校、計約50名)
 - 10月 市民ワークショップ (約70名参加)

■小中高生インタビュー、市民ワークショップでの感想(一部抜粋)

- 読書以外の体験を想像すると夢が膨らむ。駅前の便利な場所であれば、遠くても行く。
- 近所の図書館は静かすぎて過ごしづらい。家族や友人とお喋りや食事ができると良い。
- 隣の市に、新しい大きな図書館ができたので、親子でよく利用している。

●今後の予定

- 12月17日～ 素案についての市民意見募集
- 1月19日 市民意見募集×切
- 3月 市会定例会で(案)の公表 →「整備基本構想」策定

2 基本構想について

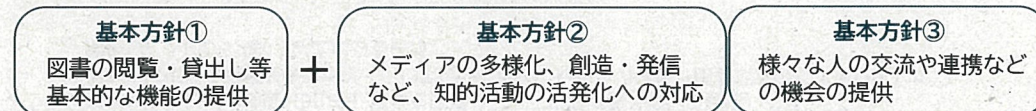
(1) 基本構想の位置づけ(本編第1章)

図書館ビジョン、今後の市立図書館再整備の方向性を踏まえ、新図書館のコンセプトや具体的な機能、立地場所等、**新図書館整備に関する基本的な考え方や方向性**をとりまとめたもの。

(2) 新図書館整備の方向性(本編第2章)

●基本方針

これまでの図書館が備えていた基本的機能を強化するとともに、メディアの多様化や、交流や連携の機会といった時代のニーズを踏まえた取組を進めることで、**新図書館が「新たな価値を生み出すまちの拠点」**となることを目指します。



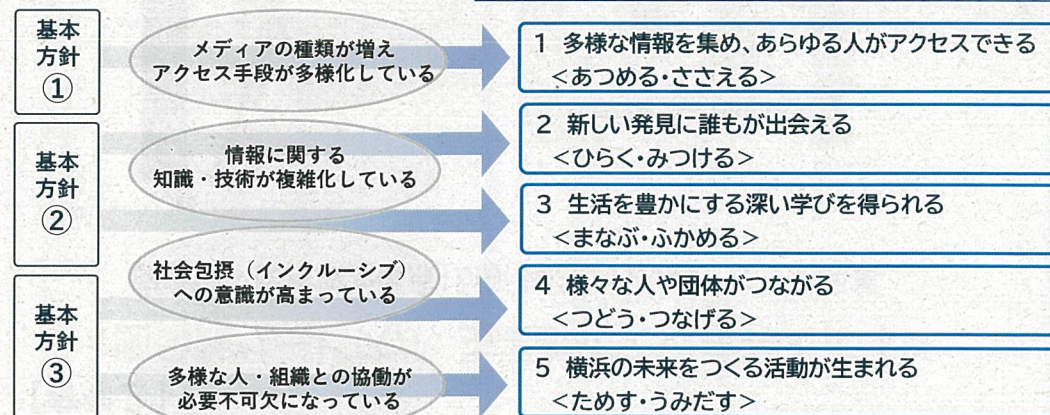
●目指す姿

①～③の基本方針に基づき、近年の社会動向も踏まえながら、新図書館が目指す姿を整理。

<図書館を取り巻く社会動向>

<目指す姿>

知を拡げ 人をつなぎ 新たな価値を生み出す まちの拠点



(3) 新図書館の整備 <整備基本構想(素案)要旨>

(3) 新図書館の機能 (本編第3章)

「目指す姿」を実現するための機能と具体的な取組を整理。

<あつめる・ささえる>
情報の充実とアクセス性向上

- ・図書も含めた幅広い情報を収集
- ・地域図書館を支える物流拠点

<ひらく・みつける>
知的好奇心を育む

- ・開かれた居心地の良い空間
- ・利用者を惹きつけるコンテンツ

<まなぶ・ふかめる>
体験を通じた学び

- ・五感を使った体験の提供
- ・知識の深掘り、探求の支援

<つどう・つなげる>
知的交流の創出

- ・利用者同士が互いに交流
- ・多彩な講演やワークショップ

<ためす・うみだす>
新たな価値の創出

- ・アイデアを実践する場
- ・知を発信・PRする場



(4) 施設規模 (本編第4章)

各機能を発揮し、取組を実践していくため、現段階における施設規模を約20,000㎡と想定。

●施設整備の方針

1 読書環境の充実

- ・蔵書不足の解消に向け、約100万冊を収蔵
- ・閲覧席等の「座席」を約1,000席確保

2 体験、交流、創造、発信等新しい機能の整備

- ・1,000人程度が滞在・活動できる空間を確保

3 市立図書館ネットワーク支援機能の確保

- ・書庫、物流拠点等を整備

エリア	規模の目安
図書・閲覧等の基本的機能の提供	約6,000㎡
体験、交流等新しい機能の提供	約5,000㎡
新図書館利用者へのサービスを支える	約5,000㎡
市立図書館ネットワークを支える	約2,000㎡
事務管理関連	約2,000㎡
合計	約20,000㎡

(5) 立地 (本編第5章)

利用者のアクセス性、物流拠点としての適性、全市民的なまちづくり・市域バランスの3つの視点から、新横浜駅北口の市有地に新図書館を整備。当該地区のまちづくりと連携して推進。

所 在	港北区新横浜二丁目1番5
面 積	2,796.29㎡
周 辺 環 境	新横浜駅から徒歩1分(JR・市営地下鉄・東急・相鉄)、北口駅前広場に隣接
所 有 者	横浜市



■エリア選定プロセス

①利用者のアクセス性

市内主要駅について、市内各駅からの所要時間を算出し比較

→横浜駅、桜木町駅、東神奈川駅、新横浜駅、関内駅の5つが優位

②物流拠点としての適性

①の5駅について、地域図書館等既存拠点からの道路アクセス等を比較

→新横浜駅、横浜駅が優位

③全市民的なまちづくり・市域バランス

①の5駅について駅乗降客数、エリア内における類似の市民利用施設(図書館・美術館・博物館)の立地状況を比較

→横浜都心には中央図書館や、美術館・博物館が多く立地するが、新横浜都心にはない

➡これらを踏まえ、新図書館は新横浜駅周辺での立地が適当

■用地選定プロセス

当該エリア内において、必要な規模の確保、接道要件、駅からのアクセス性、まちづくりの視点から、整備予定地を「新横浜駅北口市有地」と決定。

(6) その他 (本編第6章等)

来館者数：年間300万人(想定)

事業手法：施設の機能を最大限発揮するため、公・民双方の良さを活かせるよう、公民連携手法も視野に入れ検討

※1「本棚劇場」©角川武蔵野ミュージアム

※2「体感型デジタルアート劇場 浮世絵 RE:BORN」Design and creative direction: GIANFRANCO IANNUZZI Multimedia content production: KARMACHINA ©角川武蔵野ミュージアム

(4) 図書館サービスの充実（デジタル技術の活用）

令和2年度に導入した電子書籍の拡充に加え、地域図書館の老朽化対策と連携しながら、デジタル技術の導入を進め、新たな体験の提供、利便性の向上に取り組めます。

	令和 8	令和 9	令和10	令和11	令和12～
(1) AIを活用した絵本推薦システムの導入拡大 ロボットと連動したAI絵本推薦システムに加え、 絵本に関するクイズをロボットが出してくれる「ぴたりえクイズ」も新たに実証導入 →子どもが楽しく読書に親しめる環境を整備	 5館で 実証導入	実証結果を踏まえて順次拡大			
(2) 市民参加型のオンラインプラットフォームの構築 オンライン上で図書館にある「お気に入りの本」やレビューを投稿できる仕組みを整備 →市民同士の交流や本との出会いに →投稿と連動したリアルな本棚を図書館にも設置して、来館促進	 ・構築 ・2館で モデル 実施	老朽化対策と連動して 順次導入			全館で 導入
(3) のげやま子ども図書館への没入型コンテンツの導入 子どもが映像と音により絵本の世界を体感できる空間を整備、 モーションセンサーによるインタラクティブな仕掛けも →楽しみながら学べる体験を提供	 構築	「こどもフロア」オープンに 合わせて導入			
(4) 市立図書館全館へのICタグ導入 ICタグを活用し、セルフ貸出機等の対応機器を導入 →基本的な利用者サービスの一新による利便性の向上と図書館業務の効率化	 タグ貼付作業	全館で導入			

デジタル技術進展の動向も鑑みながら、柔軟に対応していきます。

(5) 図書館サービスの充実（司書の力を活かしたサービス）

市立図書館の司書の力を活かし、図書館の老朽化対策に加え、サービス面での図書館の魅力向上・機能強化も一体となって進めます。

(1) 多様な主体との連携

市民、団体、企業等との連携により、本に興味がなくとも来館の契機となる幅広い体験型事業を推進

<連携例>

- GREEN×EXPO2027をテーマに地元企業と連携した体験講座
- 地元在住作家を講師として、ショートショートを書くワークショップ
- 区内大学の学生による図書館の特別おはなし会



レファレンス

地域との
協働・共創

司書の
専門性

選書

子どもの
読書支援



(2) アウトリーチ活動

司書が地域に出向き、図書館や本から遠い方へ、図書館サービスのご案内や読書の楽しみをお届け

<実施例>

- 地域子育て支援拠点と連携し、地域ケアプラザでファーストブックの選び方について講座を開催
- 国際交流ラウンジに出向き、出張登録会や本に関する相談に対応
- 地域の商業施設で、司書とのおしゃべり会を実施

(3) 学校への支援

学校の授業や読書活動を司書がサポート

<支援例>

- ブックトークの授業に出向き実演等の授業支援
- 読み聞かせボランティア向けの研修を実施し、学校での読書を支援
- 学校図書館に出向いて、司書が蔵書管理等環境整備について幅広く助言



(4) 子育て世代にやさしいサービス

子育て世代の本選びをサポートするための仕掛けを展開

<実施例>

- 司書が選んだ絵本を年齢別に組み合わせた「絵本セット」を全館で貸出開始
- 子どもが気軽に司書に本について相談できるヒアリングシート「図書館でなによむ？」の全館展開



さらなる司書の専門性の強化及び取組の推進により、図書館の利用促進と利用者の満足度向上につなげます。